

（様式6-A） A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

中田 昂 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 The feasibility of a fully synthetic and self-assembled peptide solution as a submucosal injection material: A preliminary animal study.

（自己組織化ペプチド溶液の粘膜下局注材としての有用性に関する先行的研究）

雑誌名 Scandinavian Journal of Gastroenterology 56(8):984-989, 2021

著者 Ko Nakata, Mathieu Pioche, Shiko Kuribayashi, Hirohito Tanaka, Daisuke Uehara, Kazue Nagai, Thomas Lambin, Thierry Ponchon, Toshio Uraoka.

論文の要旨及び判定理由

本研究は内視鏡治療における粘膜下局注材としての自己組織化ペプチド溶液の有用性が前向きに検証された初めての研究である。粘膜下局注は内視鏡治療の成否だけでなく、腸管穿孔や出血のような偶発症を減少させる面からも非常に重要なステップであり、治療のためには十分高さの粘膜下膨隆の形成および維持が可能な粘膜下局注材が必要とされる。本研究により、内視鏡治療において自己組織化ペプチド溶液は既存の粘膜下局注液と同等以上の有用性を示すことが判明した。将来的には自己組織化ペプチド溶液を内視鏡治療に用いることで、本剤の持つ組織再生学的機序が偶発症を減少させることができるかなど、研究の発展性も期待される。

非常に有用な研究であると認められ、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

（審査年月日）2023年12月21日

審査委員

主査 群馬大学教授（医学系研究科）
消化管外科学分野担任 佐伯 浩司 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
産婦人科学分野担任 岩瀬 明 印

副査 群馬大学教授（医学系研究科）
循環器内科学分野担任 石井 秀樹 印

参考論文

なし